

**北薩・伊佐地区埋蔵文化財
分布調査報告書 (Ⅵ)**

阿久根市・野田町

平成 8 年度

1997年3月

鹿児島県教育委員会

序 文

北薩・伊佐地区（一部日置地区を含む）の埋蔵文化財分布調査は、平成3年度から平成11年度までの9ヶ年計画で県教育委員会が実施しており、新たに発見された遺跡については、年度毎に報告書を作成し、埋蔵文化財保護行政の基礎資料として、諸開発事業との調整に活用されているところです。

本県の開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、増加の一途をたどっており、県教育委員会としては、各市町村教育委員会に対し発掘調査の体制整備と、埋蔵文化財の管理・保存・活用のための専門員の設置、さらに基礎資料としての遺跡地図の整備について、お願いしてきたところであります。

その結果、本県の埋蔵文化財保護体制は着実に整備・充実されてきております。今後共、市町村教育委員会におかれては、埋蔵文化財の一層の保存活用が図られるよう遺跡の周知等について、本報告書を積極的に活用されるようお願い致します。

本報告は阿久根市と野田町の新発見の15遺跡とその他の周知の遺跡の範囲等についてとりまとめたもので、調査に協力していただいた関係市町教育委員会並びに関係者各位に対し深く感謝の意を表します。

平成9年3月

鹿児島県教育委員会
教育長 有馬 学

報告書抄録

ふりがな	ほくさつ いさちくまいぞうふんかざいふんぷちようさほうこくしょ							
書名	北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書 (M)							
副書名								
巻次								
シリーズ名	鹿児島県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番	72							
編著者名	堂込秀人							
編集機関	鹿児島県教育委員会							
所在地	〒890-77 鹿児島県鹿児島市鴨池新町10-1							
発行年月日	西暦 1997年 3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (対象)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ウノ瀬遺跡 他10遺跡 (周知4遺跡)	阿久根市内	462063	47~57	30°56') 32°07'30"	130°10') 130°19'	1997年 11月12日 ~22日	500ha	分布調査
東笠掛遺跡 他5遺跡	野田町内	464015	11~15	32°00'30") 32°05'30"	130°14') 130°17'	1997年 11月25日 ~27日	500ha	分布調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
ウノ瀬遺跡 他10遺跡 (周知4遺跡)	散布地	縄文~中世	—————	土器片・黒曜石剥片 青磁片		表採資料		
東笠掛遺跡 他5遺跡	散布地	縄文~中世	—————	土器片・黒曜石剥片		表採資料		

例 言

1. 本書は、平成8年度に実施した北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査における「北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書（Ⅳ）」である。
2. 本年度は、阿久根市・野田町の2市町を対象とした田畑等の一筆毎の悉皆調査を基本として、必要に応じて聞き取り調査を実施した。
3. 調査に当たっては、各市町作成の5千分の1の地形図を利用した。
4. 図中の遺跡地図は、黒刷りが周知の遺跡を、赤刷りが新発見の遺跡のものである。
5. 新発見の遺跡については、その遺跡範囲のみを記入した挿図を掲載し、そのほかの周知の遺跡等は記入してない。
6. 本書の執筆・編集は堂込が行った。

目 次

序 文	
報告書抄録	
例 言	
目 次	
第1章 調査の経過	7
第1節 調査に至るまでの経過	7
第2節 調査の組織	7
第3節 調査の経過（日誌抄）	8
第2章 調査報告	10
第1節 阿久根市の調査	10
第2節 野田町の調査	29

表 目 次

第1表 分布調査の成果	7
第2表 調査日程と分布調査地区	8
第3表 阿久根市新発見の遺跡地名表	9
第4表 野田町新発見の遺跡地名表	9

挿 図 目 次

第1図	阿久根市の採集遺物	10
第2図	ウノ瀬遺跡，大漣遺跡の位置	11
第3図	下黒山遺跡の位置	13
第4図	平瀬迫遺跡，深田遺跡の位置	14
第5図	平遺跡，迫遺跡，登畑遺跡の位置	18
第6図	宮ノ脇遺跡，宮脇遺跡の位置	19
第7図	陣之尾遺跡の位置	22
第8図	多田山遺跡の位置	23
第9図	波瑠貝塚の推定遺跡範囲	25
第10図	山下地区の遺跡範囲	26
第11図	賀喜が城跡の位置	27
第12図	柘城跡の範囲	28
第13図	野田町の採集遺物	29
第14図	東笠掛遺跡，平地遺跡の位置	30
第15図	大園遺跡，大島遺跡の位置	33
第16図	春遺跡，野田島遺跡の位置	34
第17図	阿久根市の遺跡地図	36
第18図	野田町の遺跡地図	37

図 版 目 次

図版1	〈ウノ瀬遺跡，大漣遺跡〉	12
図版2	〈下黒山遺跡，平瀬迫遺跡〉	15
図版3	〈平瀬迫遺跡，平遺跡〉	16
図版4	〈宮脇遺跡，迫遺跡〉	20
図版5	〈迫遺跡，登畑遺跡〉	21
図版6	〈陣之尾遺跡，多田山遺跡〉	24
図版7	〈東笠掛遺跡〉	31
図版8	〈平地遺跡，大園遺跡〉	32
図版9	〈大島遺跡，春遺跡〉	35
図版10	採集遺物〈阿久根市，野田町の遺物〉	38
図版11	採集遺物〈各遺跡の採集遺物〉	39
図版12	採集遺物〈各遺跡の採集遺物〉	40

第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会は、北薩・伊佐地区の4市13町4村（串木野市・阿久根市・出水市・大口市・東市来町・市来町・樋脇町・東郷町・鶴田町・宮之城町・薩摩町・祁答院町・里村・上飯村・鹿島村・下飯村・高尾野町・長島町・東町・野田町・菱刈町）について埋蔵文化財分布調査を平成3年度から平成11年度にかけて計画した。これは、北薩・伊佐地区の諸開発事業の施行に際して埋蔵文化財保護行政と開発事業との調整に資することを目的とするもので、前年度までに市町村で実施した遺跡は、合計で380遺跡にのぼる（第1表）。これらは、早速に九州西回り自動車道やこれに伴う諸開発事業や農業農村基盤整備事業等の協議・調整の資料として活用されている。

第1表 分布調査の成果

年 度	対 象 市 町 村	遺 跡 数	実 施 時 期 (実働)
平成3年度	串木野市・東市来町・市来町	116遺跡	5月7日～6月13日 (28)
平成4年度	樋脇町・東郷町・鶴田町	104遺跡	8月3日～9月10日 (21)
平成5年度	宮之城町・薩摩町	104遺跡	7月5日～8月12日 (23)
平成6年度	飯島(里村・上飯村・鹿島村・下飯村) 長島町・祁答院町	37遺跡	7月5日～8月12日 (23)
平成7年度	東町・高尾野町	19遺跡	11月28日～12月22日 (16)

調査にあたっては、文化庁全国遺跡分布調査要項（昭和46年4月）に準拠し、埋蔵文化財を中心に原則として田畑一筆毎の悉皆調査を行い、必要に応じてボーリング調査をするなど精密な分布調査を実施するものである。また、結果については分布図・報告書を作成し関係機関に配布する。

平成8年度は、阿久根市と野田町の2市町を対象にして、平成8年11月12日(火)～11月28日(木)にかけて分布調査を実施した。

第2節 調査の組織

調査主体者	鹿児島県教育委員会	教 育 長	有 馬 学
調査責任者	鹿児島県教育庁文化財課	課 長	立 園 多賀生
調査企画担当者	〃	課 長 補 佐	山 田 孝 志
	〃	主任文化財主事兼 埋蔵文化財係長	戸 崎 勝 洋
調査担当者	〃	文 化 財 主 事	青 崎 和 憲
	〃	文 化 財 主 事	堂 込 秀 人
調査事務担当者	鹿児島県教育庁文化財課	主 査	末 吉 博 志

調査にあたっては出水教育事務所をはじめ、阿久根市教育委員会、野田町教育委員会の協力を得た。

第3節 調査経過

調査は、阿久根市を2週間、野田町を2週間の予定で、阿久根市から調査を行った。阿久根市社会教育課 河北篤司、野田町社会教育課 井山博貴の各氏が調査に終日同行した。事前打ち合わせを11月6日(水)に行い、調査に入った。

報告書作成作業は、県立埋蔵文化財センターで行った。

以下、具体的な調査内容については、一覧表にまとめた。

第2表 調査日程と分布調査地区

月 日	町 村 名	分 布 調 査 地 区	発見遺跡番号
11月12日 ～13日	阿久根市	八郷・小漣・大漣・黒之上・黒之浜・深田之浦・古里 脇本浜・馬場・上原・瀬之浦・永田・桐野	1～8
11月18日	阿久根市	内田・桑原城・赤剥・長谷・折口・牟田・根比・浦頭 中村・段・黒崎・新町・大尾・太田・大曲・上野	9～10
11月20日 ～22日	阿久根市	馬場・遠矢・横手・蓑野・尾崎・弓木野・落・栢・飛松 倉津・遠見ヶ岡・佐湯・高之口・田代中・永原・尾原 大川・的場・尻無原・長迫・仲仁田・中屋敷・阿久根大島	
11月25日 ～27日	野 田 町	旭・屋地・中郡・八幡・瀬戸・本町・大日・別府・地藏 飯屋・青木・涼松・特手・受口・大丸・久木野・上餅井 下餅井	1～6

第3表 阿久根市新発見の遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	ウノ瀬	阿久根市大瀧	台地	縄文・中世	縄文土器片、黒曜石・青磁片	
2	大瀧	◇ 大瀧	傾斜面	中世	土師器片、須恵器片	
3	下黒山	◇ 脇本	台地	縄文・古墳	縄文土器片	
4	平瀬迫	◇ 脇本深田	台地先端部	縄文・古墳	縄文土器片、成川式土器片	
5	平	◇ 脇本瀬之浦	傾斜面	縄文・古墳	縄文土器片、成川式土器片	
6	宮脇	◇ 脇本瀬之浦	台地	縄文・古墳	黒曜石、縄文土器片、成川式土器片	
7	迫	◇ 脇本瀬之浦	河岸段丘	古墳～中世	成川式土器片多量、青磁片	
8	登畑	◇ 脇本瀬之浦	沖積微高地	弥生古墳中世	成川式土器片多量、青磁片	
9	陣ノ尾	◇ 多田	台地	縄文古墳中世	黒曜石、縄文土器片、成川式土器片	塁跡と同一
10	多田山	◇ 多田	沖積微高地	古墳～中世	成川式土器片、土師器片	

第4表 野田町新発見の遺跡地名表

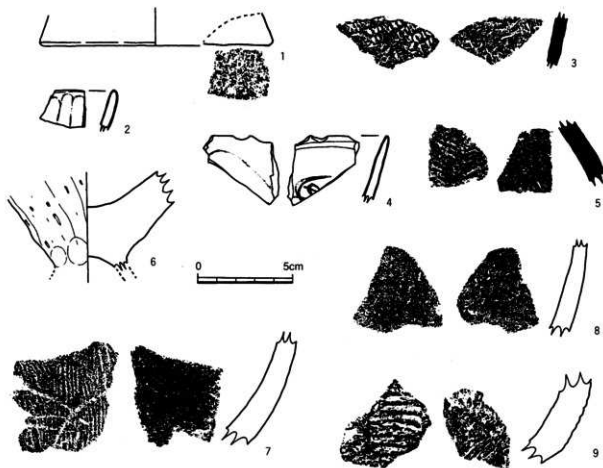
番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考
1	東笠掛	野田町上名屋地	沖積台地	古墳～中世	成川式土器片、土師器片	
2	平地	◇ 上名中郡平地	沖積台地	中世	土師器片	
3	大園	◇ 上名大園	沖積台地	中世	土師器片	
4	大島	◇ 上名瀬戸大島	沖積台地	縄文・中世	縄文土器片、土師器片、青磁片	
5	春	◇ 上名上田多園	沖積台地	古墳～中世	成川式土器片、土師器片、染付片	

第2章 調査報告

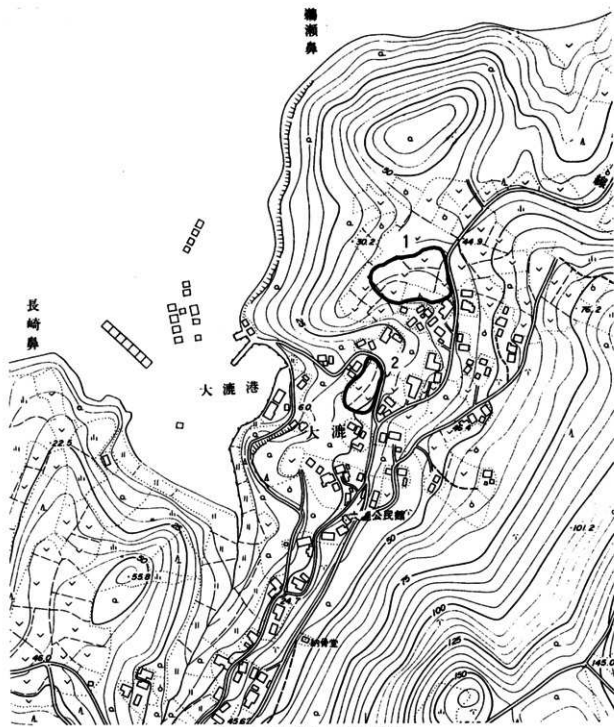
第1節 阿久根市の調査

阿久根市は県の北西部、東シナ海に面した港市であり、古くからの九州西岸の良港として栄えてきた。地形は南部が出水山地の一部で高峻な地形をなし、その西から西北に向かっては、安山岩・熔結凝灰岩などのなだらかな丘陵がひろがる。また北端部は安山岩質のなだらかな山地で、この南北の山地帯の間は、シラス台地や礫層からなる丘陵性台地となっている。高松川や折口川などの作る沖積低地に現在の市街地が形成され、市街地以外は水田地帯となっている。中小河川の河口部分に砂浜があるものの、大部分は急崖で、「牛ノ浜」といわれるような景勝地となっている。

埋蔵文化財については、安山岩や熔結凝灰岩の丘陵は、土壌の形成が良くなく、後世の開発による影響を受けやすい。シラス台地部分では、他の火山灰層を含めて、その堆積状況は一般的な鹿児島県の状況と共通するが、山下地区にかぎられる。山下地区については、莫祢氏の居館跡を含めて、中世集落の存在が予想されるほか、英祿駅の比定地ともされており、諸開発事業との調整については、将来的に注意を要する地区であろう。現在は、キヌサヤエンドウを中心に園芸作物と、ミカンを中心とする樹園地が大部分で、山地帯や山麓の樹園地については、調査は困難であった。



第1図 阿久根市の採集遺物



第2図 ウノ瀬遺跡、大漣遺跡の位置

1. ウノ瀬遺跡（第1図-1・2、第2図、図版1）

阿久根市の北端部の鶴瀬鼻の南、大漣港を見下ろす南西向き、標高約40mの斜面である。1は、縄文時代晩期の土器の底部にあたる。2は14世紀前後の青磁である。黒曜石の剥片も数点採集した。縄文時代と中世の遺跡である。台地の高いところは削平されているが、港にむかう傾斜面の方に包含層が残存している可能性が強い。

2. 大漣遺跡（第1図-3、第2図、図版1）

大漣港に降りる標高25mのかなり急な斜面で、現在段々畑となっており、切り盛りが顕著で、遺



ウノ瀬遺跡（東から）

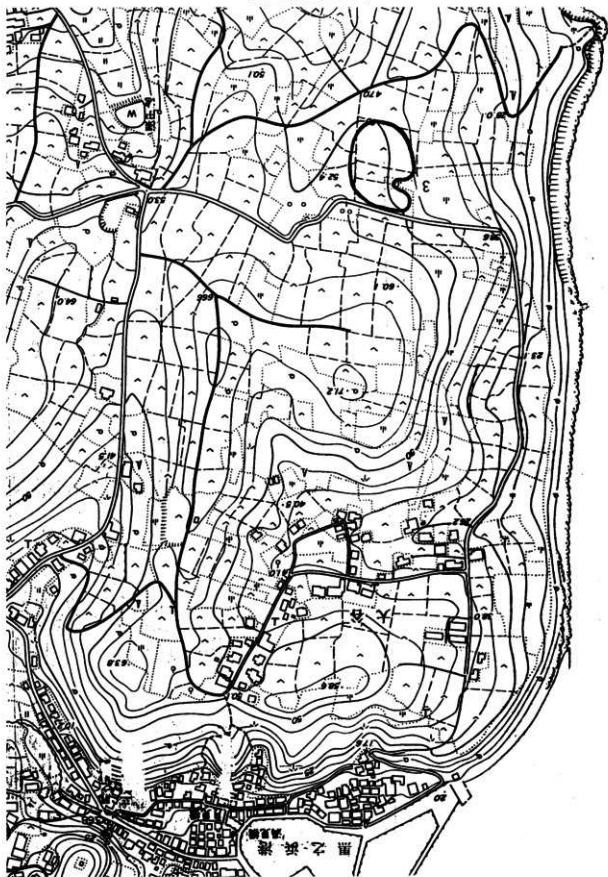


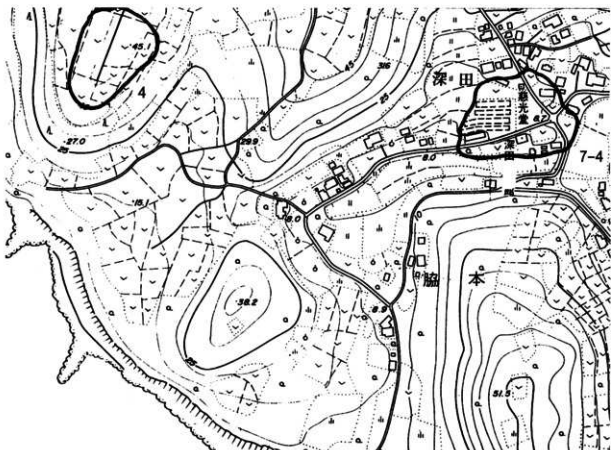
ウノ瀬遺跡（北から）



大瀬遺跡（東から）

第3回 下馬山跡の位置





第4図 平瀬迫遺跡、深田遺跡（7-4）の位置

跡の残存状況は良くない。3は須恵器で表面にタタキ痕が残る。土師器の破片も採集した。中世の遺跡である。

3. 下黒山遺跡（第3図、図版2）

黒之瀬戸を見下ろす、西向き、標高50mの緩斜面で、土壌が薄く、岩盤の上に周辺の土壌をあつめて、畑地としている。そのため包含層の残存状況はよくないものと考えられる。遺物は小破片で文様もないが、縄文土器と思われる破片と、古墳時代の成川式土器の破片を採集した。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

4. 平瀬迫遺跡（第4図、図版2・3）

海をみおろす、標高45mの南向きの台地の先端部分に位置する。畑地造成によるかなりの削平が伺われる。縄文土器と思われる破片と、古墳時代の成川式土器の破片を採集した。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

深田遺跡（第4図）

縄文時代晩期の深田遺跡として、周知されている遺跡であるが、遺跡の範囲が不明確であった。脇本港に面してひらけた低地部分に位置する。最近個人住宅の建築があり、そこから石鏝などの遺物が出土したとの情報があり、現地踏査をおこなった。その結果、公民館の東側の畑地に遺物が散布し、現在ゲートボール場として造成された場所と、北側の畑との段の壁にも包含層が露出しており、縄文時代の遺物が採集できる。ゲートボール場の造成や個人住宅の建築によって、かなりの部分が損壊しているが、ゲートボール場の北側の畑から、公民館の南側の小川までが遺跡の範囲と思



下黒山遺跡 (西から)



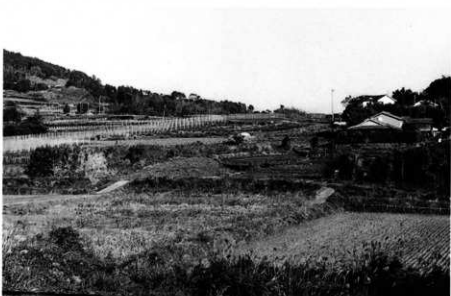
下黒山遺跡 (北から)



平瀬泊遺跡遠景 (東から)



平瀬迫遺跡 (中央-北から)



平瀬跡遠景 (南西から)



平瀬跡 (北西より)

われる。黒曜石と土器片等多数散布している。

5. 平遺跡 (第5図, 図版3)

久根市の北部の山地帯の南麓にあたる、標高20mの東南向きの傾斜面で、段々畑となっている。縄文土器と思われる破片と、古墳時代の成川式土器の破片を採集した。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

6. 宮脇遺跡 (第6図, 図版4)

新田川の右岸、水田地帯を望む北側の標高約22mの台地の東南向きの傾斜面で、宮崎神社の北に位置する。縄文土器と思われる破片と黒曜石の剥片、古墳時代の成川式土器の破片を採集した。縄文時代と古墳時代の遺跡である。

宮崎神社 (宮ノ脇) 遺跡 (第6図)

宮崎神社の西側の雑木林の中で、昭和43年に一部試掘が行われた。須恵器および土師器の破片が出土し、この時期の貝塚が検出された。縄文時代の遺物も出土しているが、貝塚がこれに伴うものか明らかにされていない。現在、道路の断面に小貝塚が見られる。採集遺物は、黒曜石の剥片や古墳時代の成川式土器の破片、土師器を採集した。小貝塚の時期についてははっきりしない。宮崎神社の境内は、新築時に、切り下げられているが、その断面の表土に近い部分からも遺物を採集した。境内をふくめて遺跡範囲として図示する。宮脇遺跡とつながって同一の遺跡である可能性もある。

7. 迫遺跡 (第1図-4・5・6, 第5図, 図版4・5)

瀬之浦下の標高16m強の南向きの台地で、一段下がって集落があり、その前面に水田が広がる。4は草花文を施す青磁片で、12世紀ごろのものであろう。5は、外面は平行タタキ、裏面はナデられ、中世須恵器である。6は、古墳時代の成川式土器の脚台部分である。成川式土器の破片が多量に散布している。遺跡の北西部は、山地帯から流下する小川の谷部にあたり、現在水田となっており、土壌も厚く、遺跡が良好に残存している可能性がある。

8. 登畑遺跡 (第1図-7・8, 第5図, 図版5)

瀬之浦下の伊勢神社の東側の標高15mの沖積台地で、東南向きにゆるやかに傾斜する。シラスと砂礫の堆積層が基盤となっている。7は、外面がハケ目調整、内面がナデ調整された、古墳時代の成川式土器の破片である。8も同様の土器片である。一部弥生時代の土器も混入している。古墳時代を中心に、弥生時代から中世の遺物を採集した。遺跡の立地条件に恵まれ、古墳時代の遺物を中心に、多量に採集できる。

9. 陣ノ尾遺跡 (第1図-9, 第7図, 図版6)

国道3号線の北側の折口川の右岸、陣之尾の西南向きにゆるやかに傾斜する標高20m弱の台地で、遺物は納骨堂の周辺の畑地に散布している。遺跡の東側に陣之尾屋跡が残存しているらしく、この一帯も陣跡であろう。縄文土器と思われる破片と黒曜石の剥片、古墳時代の成川式土器の破片、土師器片を採集した。縄文時代から中世の遺跡である。

10. 多田山遺跡 (第8図, 図版6)

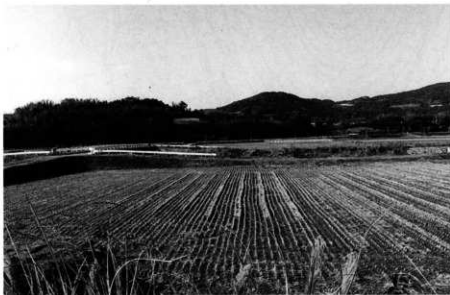
内田川の迫水田の、山際の標高約9mの西南向きの微高地である。遺物は古墳時代の成川式土器の破片、土師器片を採集した。

第5図 平路、沼澤路、野田路の位置



第6図 宮崎神社(宮ノ原)遺跡(7-38)、宮崎遺跡の位置





宮脇遺跡遠景（南から）



宮脇遺跡（西から）



泊遺跡遠景（西から）



迫道跡（東から）



登烟道跡遠景（南から）

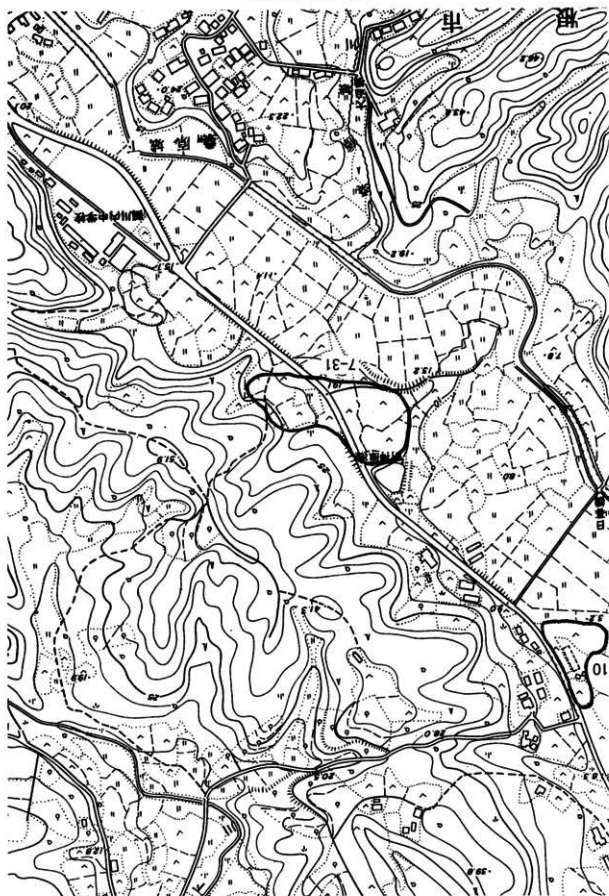


登烟道跡（北から）



第7図 陣之尾道跡の位置

案 8 回 多 田 山 家 跡 の 位 置





陣之尾遺跡遠景(西から)



陣之尾遺跡(東から)



多田山遺跡遠景(南から)



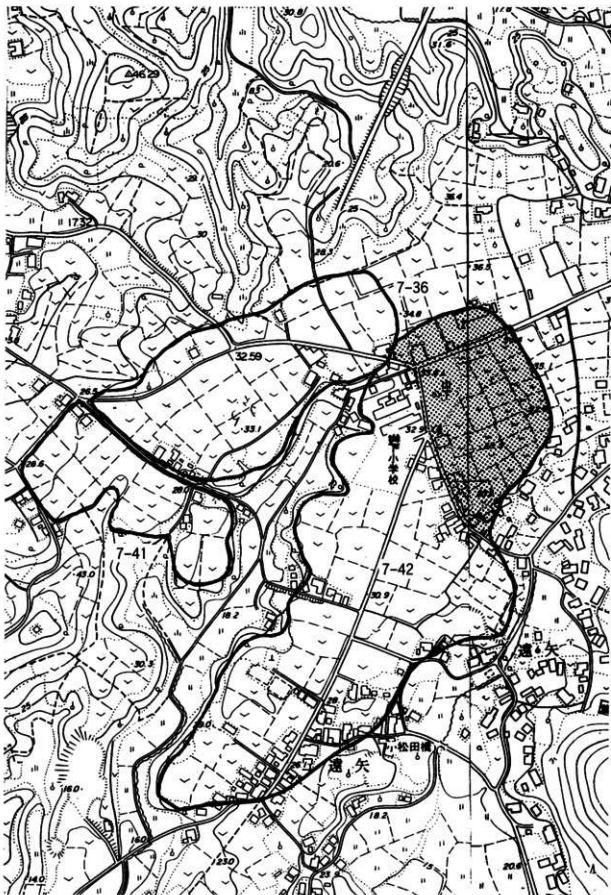
第9図 波瑠貝塚（7-3）の推定遺跡範囲

波瑠貝塚（第9図）

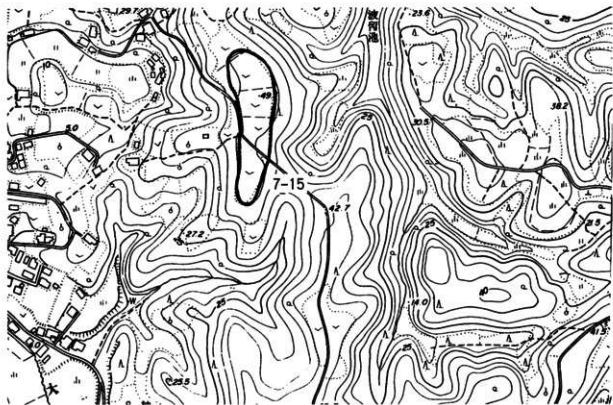
弓場義徳氏によって発見され、池水寛治氏によって報告された貝塚である。南向きの台地縁辺に位置するとの報告にある。現在は宅地化が進み旧地形の復元が難しいが、菅原神社から弓場氏の宅地まで、南向きの緩傾斜面となり、宅地の西側で段落ちして、別の宅地となっている。台地縁辺部分に形成された貝塚の中心部分に弓場氏の宅地があるものと考えられる。そこから道路を隔て、東側の畑から、今回曾畑式土器の破片と、さらに一段上がった北側の畑に、貝の散布を確認した。その範囲については、第9図のとおりである。縄文時代前期の曾畑式土器と後期の出水式が採集されており、その時代の貝塚とされている。弓場氏によると、現地表面から約1m下に純貝層があり、2mほどの厚さがあるらしい（池水先生調査時の立ち会いの情報による）。その後の採集遺物については、鳥越古墳群の報告書に詳しい。縄文時代前期の曾畑式土器の分布については、北薩に良好な遺跡が少なく、曾畑式土器の貝塚であれば、外洋の大型回遊魚を対象にした漁撈文化の性格をもつといわれる当該文化の内容を知るうえで、貴重な遺跡である。

山下地区の遺跡（第10図）

莫祢城は、愛宕山とその北側山麓の一部をもって城郭を形成すると考えられる。郭を、蔵之城あるいは新城等の「城」の名称を用いるのは、本県の中世山城では通例の事である。莫祢城内の中之城・新城・地主城・桜ヶ城等について、阿久根市教育委員会が文化財保護審議委員の先生方と現地踏査し、山下馬場に一応の比定したが、現状は宅地化やシラス取りによって改変が著しく、積極的な遺構を認めがたい。山下馬場については、上記の理由によって、遺跡範囲とはしなかった。山下地区については従来の周知の遺跡より、遺物の散布は広がり（網かけ部分）、とくに山下小学校の



第10図 山下地区の遺跡範囲



第11図 賀喜が城跡（7-15）の位置

北西に、段落ちて、細長い畑地が直線的に並ぶところに関しては、中世の遺構の可能性が考えられる。いずれにしても中世の北薩地方の中心地として注目される。

賀喜が城跡（第11図）

賀喜が城は、平安時代末期に莫祢氏初代成兼が拠城し、二代成秀まで続いたが、三代成光の時山下の莫祢城に移ったといわれる。その位置については、遺跡地図に記されてなかったが、阿久根市教育委員会が、文化財保護審議委員の先生方と現地踏査し確認したもので、今回その範囲について記載することとした。

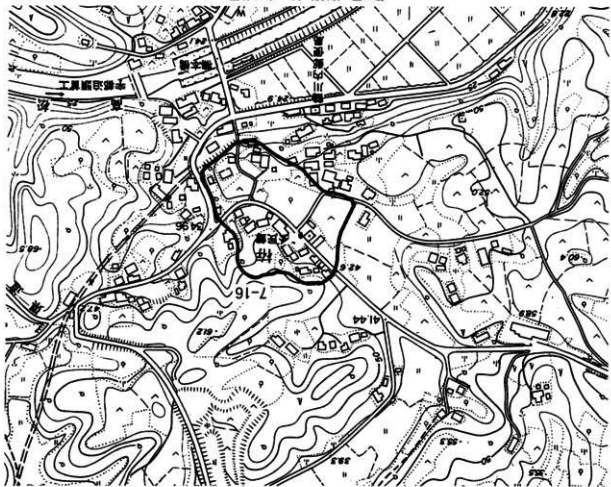
榕城跡（第12図）

榕城跡については城跡域の範囲が示されてなかったが、遺物の散布と地形から図示した範囲には広がるものと判断できる。土師器片、青磁片、瓦器などを採集した。

参考文献

- 池水寛治 1974 「先史時代の阿久根」『阿久根市史』
 黒神嘉樹 1974 「中世の阿久根」『阿久根市史』
 前迫亮一 1990 「阿久根市採集の縄文土器」『南九州縄文通信』No 3 南九州縄文研究会
 阿久根市教育委員会 1992 「鳥越古墳群」阿久根市埋蔵文化財発掘調査報告(2) 阿久根市教育委員会

第12回 終戦前 (7-16) の地図



第2節 野田町の調査

出水郡南部に位置し、南部は出水山地の高峻な地形をなし、この山地から流下する野田川の沖積低地は広い水田地帯となっている。かつて野田川等により形成された扇状地は、中心部に台地として広がっており、西方は礫層におおわれた丘陵性台地となり谷がよく発達している。水田部分は早い時期に、ほ場整備が行われており、遺跡の発見は困難であった。また丘陵部についても、土壌が薄いうえに、扇状地形成層である砂礫層が土壌化したもので、遺跡の保存状態が悪いものと考えられる。中央台地部分以外の、山地側の台地や緩傾斜面は、ミカンの樹園地となっており、分布調査は困難であった。今回の分布調査では、野田町で今まで確認された周知の遺跡と同じく、岩下川と野田川に挟まれた中央の台地を中心に発見された。もともとは畑地であったが、近年宅地造成と個人による畑地造成が進んでおり、地形の変化が著しい。

1. 東笠掛遺跡 (第13図-10, 第14図, 図版7)

国道3号線の南側、中央台地の北端部で、標高約15mの樹園地に遺物が散布する。古墳時代の土器片がかなり大量に散布しているが、西側は県道で削られている。

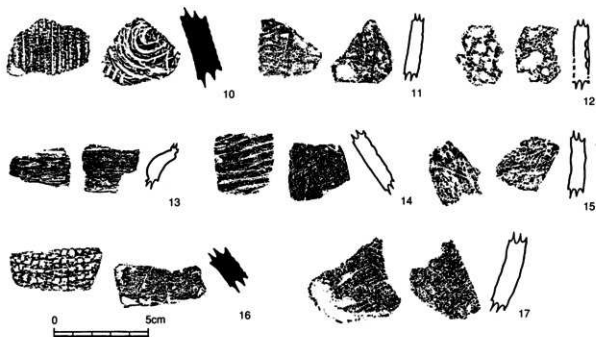
10は外面が平行タキ、内面が同心円タキ跡を残す須恵器である。他に成川式土器片、土師器片を採集した。古墳時代から中世の遺跡である。

2. 平地遺跡 (第13図-11, 第14図, 図版8)

中央台地の、標高約16mの東側斜面に立地する。西側は小谷を隔てて、木牟礼城屋形跡として、周知の遺跡になっている。一帯に中世の遺物が散布しており、平地遺跡と同一の遺跡であろう。11は土師器片である。中世の遺跡である。

3. 大園遺跡 (第15図, 図版8)

中央台地の西側の、北から入り込んだ谷の谷頭にあたる部分である。標高は約21mである。土師



第13図 野田町の採集遺物



第14図 東笠掛遺跡、平地遺跡の位置

器片を採集した。中世の遺跡である。

4. 大島遺跡 (第13図-12, 第15図, 図版9)

中央台地の標高約18mの東向き斜面に位置する。採集遺物の12は小破片であるが、貝殻腹縁による連続刺突をもち、縄文時代の土器片である。他に土師器片と青磁片を採集した。縄文時代と中世の遺跡である。

5. 春遺跡 (第13図-17, 第16図, 図版9)

役場の北側で、標高約30mの東向き斜面にひろがる。遺物は、17は外面がハケ目調整、内面ナデ調整された古墳時代の成川式土器の破片である。土師器片と染付の破片を採集した。古墳時代から中世の遺跡である。



東笠掛遺跡遠景（東から）



東笠掛遺跡（南から）



分布調査風景



平地遺跡遠景（東から）



平地遺跡（北から）



大園遺跡（南から）



第15図 大園遺跡、大島遺跡の位置

野田島遺跡 (第13図-13~16)

野田島遺跡は周知の遺跡である。すでに畑地整理がなされ造成されているが、13~16などの遺物を採集した。13は、縄文時代晩期の精製土器の破片である。外内面ともヘラミガキされている。14は、平行タタキ跡を残す素焼きの土器であり、弥生時代末から古墳時代の初頭にかけての土器と思われる。15は粗いナデで調整されている。古墳時代の土器片であろう。16は須恵器で、外面が格子目タタキ、内面がナデ調整される。



第16回 野田町、野田町建設 (48-10) の位置



大島遺跡遠景（東から）



大島遺跡（西から）



春遺跡（東から）

〔本書に掲載した地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである（承認番号 平9九根、第74号）〕

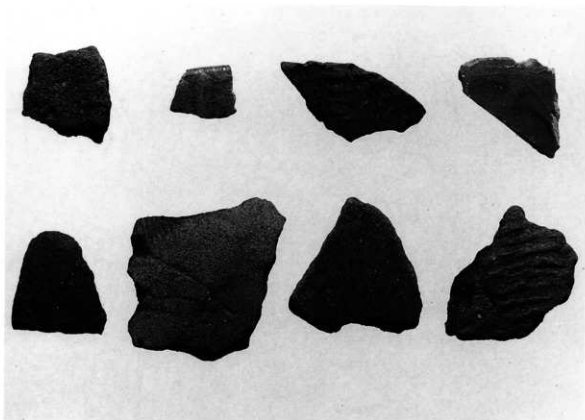


第17図 阿久根市の遺跡地図

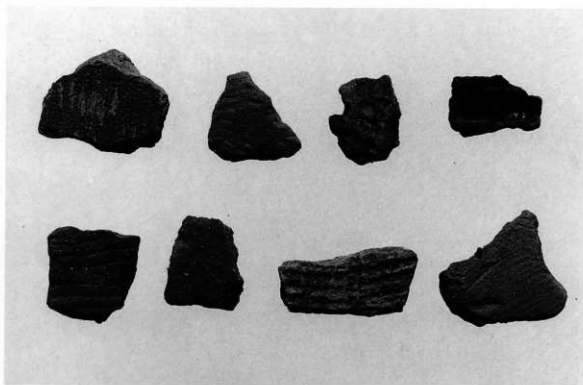
〔本書に掲載した地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである（承認番号 平9九複、第74号）〕



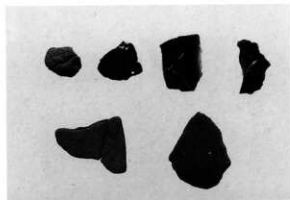
第18図 野田町の道路地図



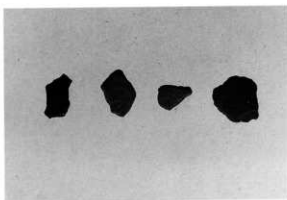
阿久根市採集遺物 (第1図)



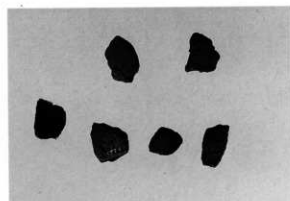
野田町採集遺物 (第13図)



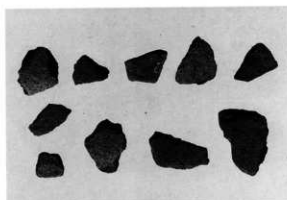
1. ウノ瀬遺跡 (阿久根市)



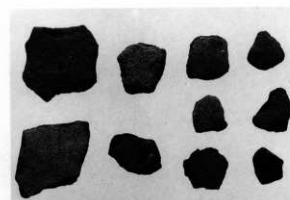
2. 大瀬遺跡



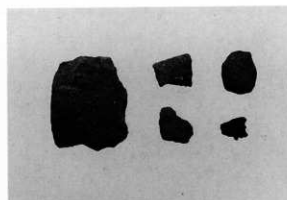
3. 下黒山遺跡



4. 戸瀬泊遺跡



5. 平遺跡



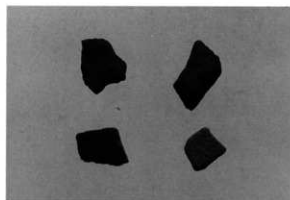
6. 宮脇遺跡



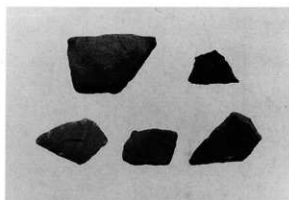
7. 泊遺跡



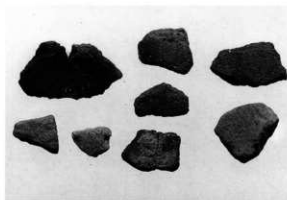
8. 登畑遺跡



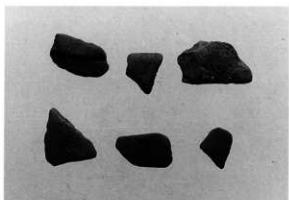
9. 陣之尾遺跡



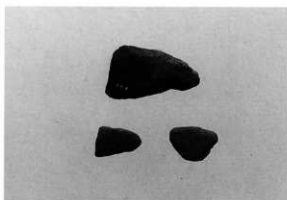
10. 多田山遺跡



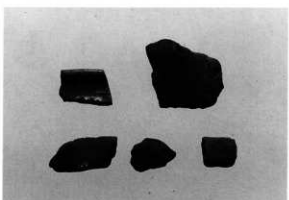
1. 東笠掛遺跡 (野田町)



2. 平地遺跡



3. 大園遺跡



4. 春遺跡

鹿児島県埋蔵文化財調査報告書(72)

北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書(Ⅳ)

発行日 平成9年3月

発行者 鹿児島県教育委員会 ☎890-77 鹿児島市鴨池新町10-1

印刷所 丸尾印刷株式会社

住 所 出水市昭和町21番地6